

公益財団法人 8020 推進財団

令和 4 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：

「咀嚼能力の維持・向上を期待した簡便なトレーニング～ガム噛みトレーニング～」(以下、ガム噛みトレーニング)と転倒リスクの相関性評価

2. 申請者名：一般社団法人 八千代市歯科医師会 会長 柴崎 聡

3. 実施組織：

一般社団法人八千代市歯科医師会、合同会社 UNTRACKED、東京医科歯科大学分野摂食嚥下リハビリテーション学分野、八千代市(後援)

4. 事業の概要：

「咀嚼能力の維持・向上を期待した簡便なトレーニング～ガム噛みトレーニング～」(以下、ガム噛みトレーニング)によって、バランス感覚及び運動機能評価項目の開眼片足上げが有意に向上した。この結果から、ガム噛みトレーニングによって転倒リスクを改善できると結論づけたが実際には、定かではない。今回は、バランス感覚及び運動機能評価に転倒リスク可視化装置 StA<sup>2</sup>BLE (以下、StA<sup>2</sup>BLE) を用いた転倒リスク評価を実施することで、より実際の臨床に基づいた転倒リスクの評価を得ることができると考える。

5. 事業の内容：

1. 研究対象者に咀嚼能力検査(グルコセンサー使用)と立位年齢検査(StA<sup>2</sup>BLE 使用)を実施する。
2. 研究対象者を無作為に 2 群に分類する。
3. A 群はガム噛みトレーニング(以下に詳細を記す)を 30 日間実施する。
4. B 群は転倒リスク予防体操(以下に詳細を記す)を 30 日間実施する。
5. A 群、B 群ともにトレーニング終了後に咀嚼能力と立位年齢の検査を実施する。
6. A 群、B 群ともにトレーニング前後の検査結果を比較検討する。
7. A 群においては、特に立位年齢の変化を評価検討する。
8. B 群においては、特に咀嚼能力の変化を評価検討する。
9. A 群において立位年齢が有意に改善することは、咀嚼トレーニングによって転倒リスクを予防できることを意味する。
10. B 群において咀嚼能力が有意に改善することは、転倒リスク予防体操によって咀嚼能力を向上できることを意味する。
9. 10. に示す相関性を評価し、相関性が成立することは、より簡便に介護予防に結びつくプログラムの完成として非常に有意義なものとする。

6. 実施後の評価(今後の課題)：

現在の n 数：32 名から 60 名まで増やして、ガム噛みトレーニング群 30 名、転倒リスク予防体操群 30 名とする。各群のトレーニング終了後にデータを統計解析して転倒リスクと咀嚼能力の相関性評価を考察する。